

平成 23 年 10 月
= 発行 =

秋田県生涯学習センター
〒010-0955 秋田市山王中島町 1-1
TEL : 018-865-1171
FAX : 018-824-1799
E-mail : sgccen002@mail2.pref.akita.jp
編集担当：社会教育アドバイザー

八幡平、烏海山など高地の紅葉が麓まで下りてきました。また、店先には、新米・果物・きのこなど秋の味覚が並びました。実りの秋、真っ最中です。

暑い夏のエネルギーを冬まで蓄える方法はないものかと、毎年この季節には思っています。冬の省エネ作戦も必要になるかもしれません。知恵を出し合って、冬に備えたいものです。

保育所・幼稚園や小学校は、学習の成果を公開する発表会などの季節です。わが子・わが孫・地域の子の頑張りを大いに褒めて、成長への弾みとしていただきたいと思います。

遊びを通して育つ子どもたち！

～秋田県認定こども園公開保育研究協議会に参加して～



平成 23 年 10 月 7 日（金）秋田県認定こども園公開保育研究協議会に参加しました。全県から 200 名を超える保育所・幼稚園関係者が集まり、熱心に保育参観・協議をしました。「認定こども園若竹幼児教育センター」の公開保育に参加して学んだことを紹介します。

認定こども園若竹幼児教育センターでは、園庭・園舎ともに子どもの遊び場という視点で環境が整備されており、子どもたちは満ち足りた表情で遊び、互いに関わり合っていました。遊びを通して学び、高まり、育つ姿を拝見し、「乳幼児期の育ち」がいかに重要か考えさせられました。質の高い保育・教育を求めて切磋琢磨する保育者の努力が、子どもの姿に表出していました。空間・時間・保育者の援助が保障されており、学ぶことの多い保育参観でした。

「幼児の仕事は遊び！」「幼児にとって、遊びが学び！」といわれています。個を育て、友達との関わりをはぐくみ、人として生きていくための基礎となり基本となる「健やかな心と体の育ち」を保障してくれる多様性のある遊びを子どもたちにたっぷりさせてあげることの重要性を再確認しました。

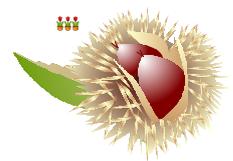
「幼児の仕事は遊び！」「幼児にとって、遊びが学び！」このことを肝に銘じて、家庭でも地域・社会でも子どもたちをはぐくみ育てていきたいものです。

- ・ 子どもたちは、遊びを通して人間関係の体験をします。
- ・ 遊びを通じて、子どもたちはルールを知ります。
- ・ 遊びは子どもの創造力や観察力を育てます。
- ・ 遊びで、知らないうちに体のいろいろな機能を使っての運動能力を養うことになります。「いっほいっほ～親も一緒に育つ～」秋田県教育庁 幼保推進課発行より

志^ち裾^{すそ}丁^{てい}醫^い
造^{ぞう}分^{ぶん}醫^い
作^{さく}けの
にのち
筑^き栗^りん
の煮^にど
茸^{しん}てん
の愛^{あい}屋^や
香^かづ行^{こう}
りるく
五^ご後^ご文^{ぶん}
つ^つの化^け
月^{げつ}の
日^{にち}

武藤

素魚





10月15日(土)秋田県立図書館・秋田県公文書館・秋田県生涯学習センター・秋田県児童会館の4会場で、秋田県読書フェスタが開催されました。各会場で、子ども向け・大人向けの様々な催しがあり、参加者は読書の秋を楽しみました。



オープニングコンサート



絵本作家武田美穂氏講演実演会



絵本原画の展示



電子書籍体験

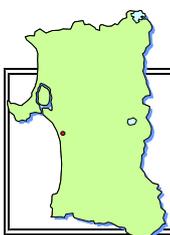


「家族で読書」推奨標語表彰式



鼎談「ふるさとと本を語る」

読書は、人生を豊かにし、生きる力を与えてくれる大切な生涯の伴侶です。そのことを教えてくれた読書フェスタでした。参加者からも大変好評でした。



「ふるさと秋田」元気創造プロジェクト
シンポジウム「ふるさと秋田」・魅力再発見

会場 秋田県生涯学習センター

コーディネーター

松岡 昌則氏 (秋田大学地域創生センター教授)

シンポジスト

荒樋 豊氏 (秋田県立大学生物資源科学部教授)

小川 健吉氏 ((株)十文字リーディングカンパニー代表取締役社長)

武内 伸文氏 (わらしべ貯金実行委員会委員長)

長山 勉氏 (「創作 海の会」主宰)



平成23年10月16日(日)、秋田の元気創造を目指して活動している4名の方を迎えて、シンポジウムが開催されました。

荒樋氏は、小学校区農村地域づくりの一手法、秋田産の材料で地ビール造り、超高齢化農村への支援、「農村商社」の創造などについて語り、「作るだけの農村」から「多面的な価値を伝える農村」への進化の必要性を強調しました。小川氏は、「行政だけに頼らないで、自分たちが行動していこう」と道の駅のサロン化を語りました。武内氏は、「ペロタクシーを走らせて街で結婚式」「商店街すごろく」「グリーンドリンクス」「わらしべ貯金箱」等、ユニークな取組を紹介し、「行動することにより秋田の魅力の再発見があり、魅力は自ら体感するのが一番」と熱い思いを話しました。長山氏は、「食文化と創作を組み合わせる観光にはどうか、コラボレーションの工夫が大切」と語りました。



最後に松岡氏が、「地域の魅力をお金に換算する時代ではない。新しい社会・生活を考えて、人・地域・社会を動かそう」という言葉で締めくくりました。